

退任

本多 公明



任期：平成 28 年 2 月 1 日
～平成 30 年 3 月 31 日

し、2年2ヶ月の間、南九州市政に携わらせていただきました。この間、塗木市長の下、職員の皆さんとの協力を得て多岐にわたる課題に取り組んでまいりましたが、これらの方々の仕事を順調に進めることができましたのは、市民や議員の皆さま、多くの関係者のご理解とご協力があったおかげであり、心から御礼申し上げます。

振り返ってみますと、就任時、南九州市は合併8年を経過し、融和と一体化を図ることを重要課題として位置づけ進められてきた各種施策が形となってきて、いるところでした。一方で、厳しい財政状況をはじめとする市政の舵取りが難しい中、地方創生や一億総活躍社会の実現が求められておりました。

このような時代の転換点にあって、何をすべきか、何ができるのかを職員の皆さんには考え、時代に合った事業・施策を形作つていく

いじらしくなることを最大限に活かし、住民、議会、NPOなど関係団体と市役所が一体となれば、「人と自然が共生する 活気あふれる住みよいまち」を必ず作り出せると確信しています。

この地を離れますのが、これまでにいたいた縁を大切にさらに深め、南九州市の応援団としてさまざまな形でサポートする機会をいただければと考えています。

多くの方々と貴重な時間を共有できましたことに改めて感謝しつつ、南九州市の発展と、市民の皆さまのご健勝、ご多幸をお祈り申します。

そういう困難で大事な仕事に真摯に取り組んでおり、これらの皆さんと一緒に仕事をできたことは、私にとって貴重な経験であり大変光栄なことでありました。

また、いろいろなイベントや行事にも参加させていただきました。そこでは市民の皆さんとの声を多く聞くことができ、そこから地域のつながりや活力を感じ、地域の持つ力こそが将来を担っていくのだとの思いを強くいたしました。

就任
福留
保



平成30年4月1日 試任

このたび 関係皆さま方のこ理解のもと、副市長の任を拝命いたしました。もとより浅学菲才の身でこのような大役は身に余る光栄であり、その職責の重々をひしひしと感じているところでもあります。

本市は昨年市制施行十周年を迎えたが、これまでの十年間の歩みを踏まえて、次の時代への幕明けともなりました。また、平成30年度は第二次南九州市総合計画のスタートとして「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」の将来都市像に向けて、新たなまちづくりに取り組む年ともなります。また、人口減少や少子高齢化の進行に伴う地域の活力維持や移住・定住の推進、財政基盤の強化や行政改革への対策は喫緊の課題でもあります。

本市は豊かな自然や、秀でた歴史や文化、魅力ある景勝地を有していますが、社会情勢はグローバ

ル化の進展、労働力不足が懸念されており、基幹産業である農業の振興はもとより、あらゆる産業形態においても具体的な活性化を図る必要があります。

また、結婚・子ども子育て世代から、高齢者世代までさまざまなシチュエーションにおける、きめ細やかな施策による、いきいきと健やかに暮らせるまちづくりも求められております。

各種施策の実施にあたっては、市民の皆さまのご意見を賜りながら

本市は昨年市制施行十周年を迎えたが、これまでの十年間の歩みを踏まえて、次の時代への幕明けともなりました。また、平成30年度は第二次南九州市総合計画のスタートとして「人と自然が共生する 活気あふれる 住みよいまち 南九州市」の将来都市像に向けて、新たなまちづくりに取り組む年ともなります。また、人口減少や少子高齢化の進行に伴う地域の活力維持や移住・定住の推進、財政基盤の強化や行政改革への対策は喫緊の課題でもあります。

本市は豊かな自然や、秀でた歴史や文化、魅力ある景勝地を有していますが、社会情勢はグローバ

ル化の進展、労働力不足が懸念されており、基幹産業である農業の振興はもとより、あらゆる産業形態においても具体的な活性化を図る必要があります。

また、結婚・子ども子育て世代から、高齢者世代までさまざまなシチュエーションにおける、きめ細やかな施策による、いきいきと健やかに暮らせるまちづくりも求められております。

各種施策の実施にあたっては、市民の皆さまのご意見を賜りながら

塗木市長の市政運営の基本である「市民の声が羅針盤」の下、生まれ育った南九州市のより一層の発展のために、これまでの37年間の市役所勤務経験を活かし、もとより微力ではございますが、市長の良き補佐役として誠心誠意、全力で職務に取り組んでまいる所存でありますので、市民の皆さまのご指導、ご鞭撻を賜りますよう重ねてお願ひ申し上げます。

形となつてきて、いるところでした。一方で、厳しい財政状況をはじめとする市政の舵取りが難しい中、地方創生や一億総活躍社会の実現が求められておりました。

このような時代の転換点にあって、何をすべきか、何ができるのかを職員の皆さんには考え、時代に合った事業・施策を形作つていく

め、南九州市の応援団としてさまざま
な形でサポートする機会をいた
ただければと考えています。

多くの方々と貴重な時間を共有
できましたことに改めて感謝しつ
つ、南九州市の発展と、市民の皆
さまのご健勝、ご多幸をお祈り申
し上げまして退任のご挨拶といた
します。

向けて、新たなまちづくりに取り組む年ともなります。また、人口減少や少子高齢化の進行に伴う地域の活力維持や移住・定住の推進、財政基盤の強化や行政改革への対策は喫緊の課題でもあります。